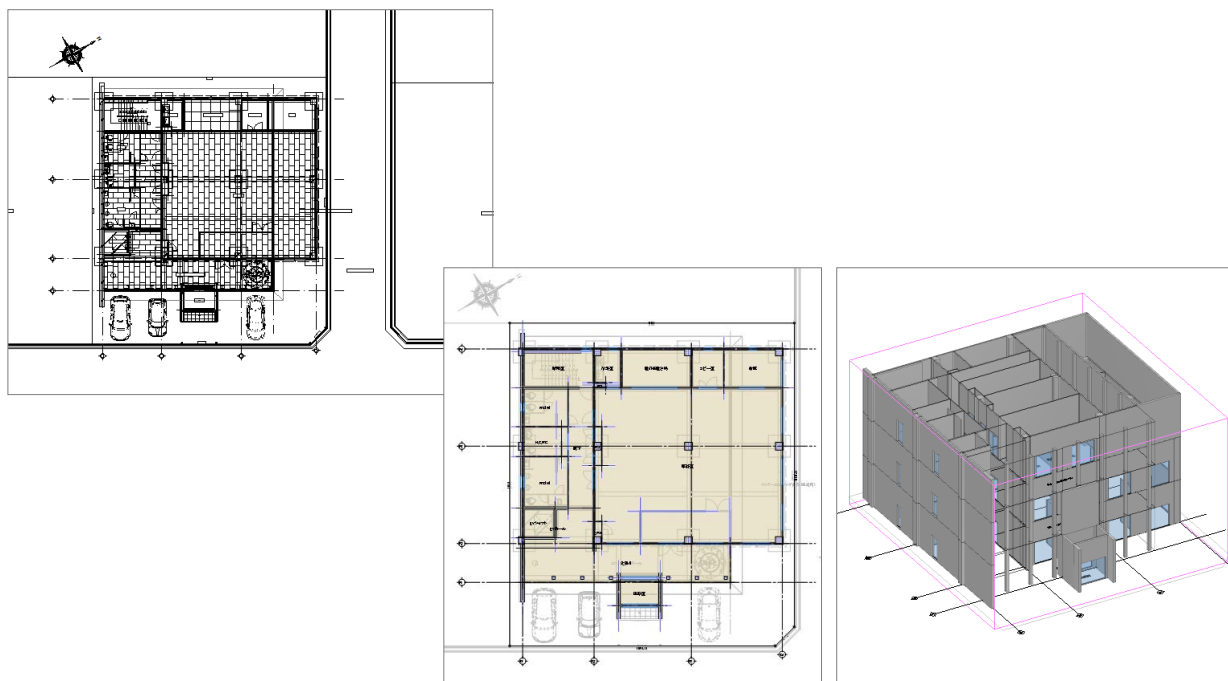


目的別マニュアル

[2D BIM 化アシスト編]



目次

1 読み込むデータの確認 _____ 3

読み込み可能なファイル _____ 3

BIM化できる図面・オブジェクト _____ 3

レイヤのグループ分け (Jw_cad データのみ) ____ 4

レイヤ分け _____ 5

2 2D 汎用データの BIM 化 _____ 6

2-1 階数・階高の設定 _____ 6

階・高さを設定する _____ 6

2-2 BIM 化の条件設定 _____ 7

読み込むファイルを指定する _____ 7

各図面の基準位置を合わせる _____ 8

レイヤごとに自動配置の対象を指定する _____ 9

下図に読み込まないレイヤを指定する _____ 10

自動配置するオブジェクトを指定する _____ 11

自動配置を実行する _____ 12

2-3 自動配置したオブジェクトの編集 _____ 14

オブジェクトの位置を確認する _____ 14

オブジェクトにテンプレートを割り当てる ____ 15

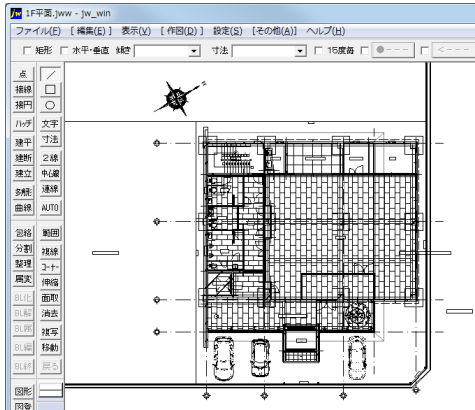
A1 1 ファイルに各階図面の レイヤがある場合 _____ 17

A1-1 Jw_cad ファイルの場合 _____ 17

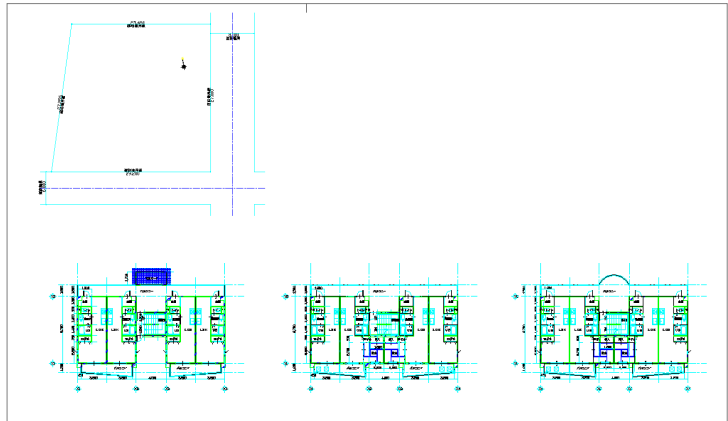
A1-2 DWG/DXF ファイルの場合 _____ 18

1 読み込むデータの確認

2D BIM 化アシスト機能を使用すると、Jw_cad、DWG/DXF のファイルを読み込んで、2D 汎用データを BIM 化できます。ここでは、BIM 化する前に、変換可能なファイル、BIM 化対象となるオブジェクト、汎用データのレイヤ分けなどの条件を確認しておきましょう。



【Jw_cad データ】



【DWG/DXF データ】

読み込み可能なファイル

次のファイルを読み込むことができます。

- ・ Jw_cad データ (jww, jwc)
- ・ DWG/DXF データ (dwg, dxf)
- ・ SXF データ (sfc, p21)

BIM 化できる図面・オブジェクト

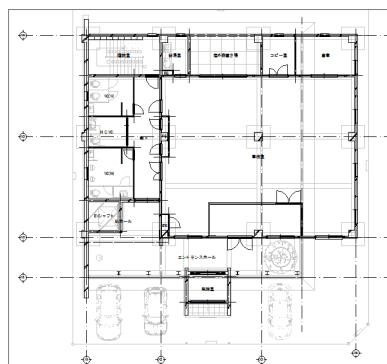
■ 対象の図面

- ・ 建物関連データ：平面図（平面詳細図）
- ・ 敷地周辺データ：配置図（その他にも敷地求積図、日影図など敷地が入力されている水平投影図面）

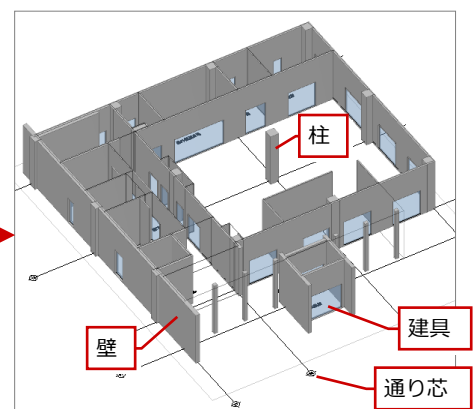
■ 変換できるオブジェクト

2D 汎用データのレイヤ情報を参照して、以下のデータを BIM 化します。

- ・ 敷地境界
- ・ 通り芯
- ・ 基準芯
- ・ スペース
- ・ 柱
- ・ 壁
- ・ 建具



【1F 平面図データ】



【GLOBE (3D ビュー)】

レイヤのグループ分け (Jw_cad データのみ)

Jw_cad データの場合、レイヤグループが正しく分けられている必要があります。

ファイルが階ごとに分けられている場合と1 ファイルを扱う場合でレイヤグループの設定が異なります。

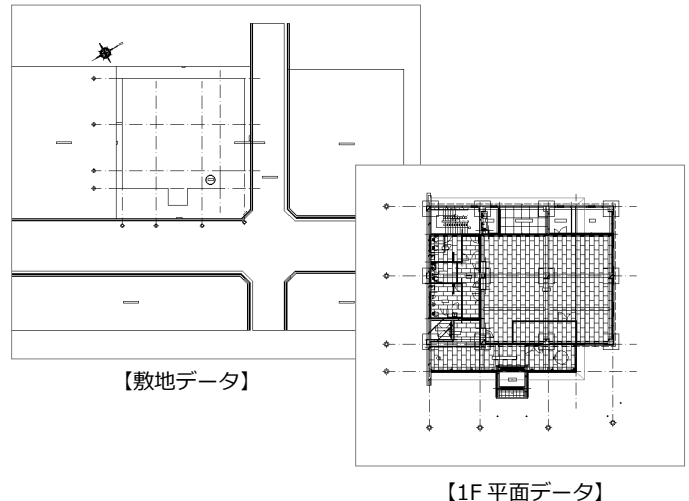
■ 階ごとにファイルがある場合

次のように、階ごとにファイルが用意されている場合、各データが複数のレイヤグループに分けられていてもかまいません。

例)

- 敷地のファイル：敷地データ
- 1F 平面のファイル：1F 平面データ
- 2F 平面のファイル：2F 平面データ
- 3F 平面のファイル：3F 平面データ

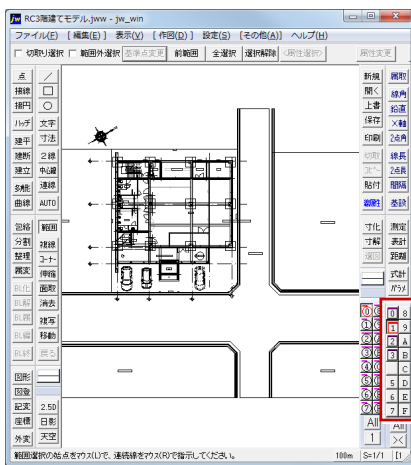
※ 1 ファイルが「敷地+1F 平面データ」となっているとまかまいません。



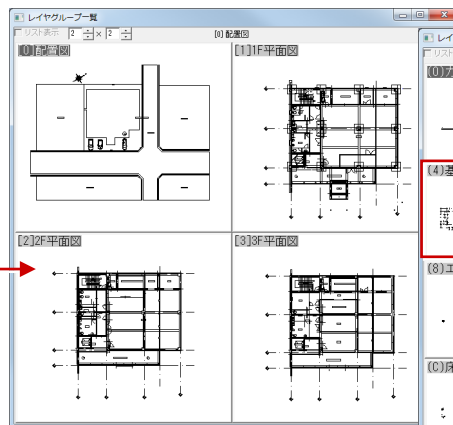
■ 1 ファイルに各階図面のレイヤが存在する場合

配置図、全階の平面図が 1 ファイルに入力されている場合、次のようにレイヤグループごとに図面が分けられている必要があります。

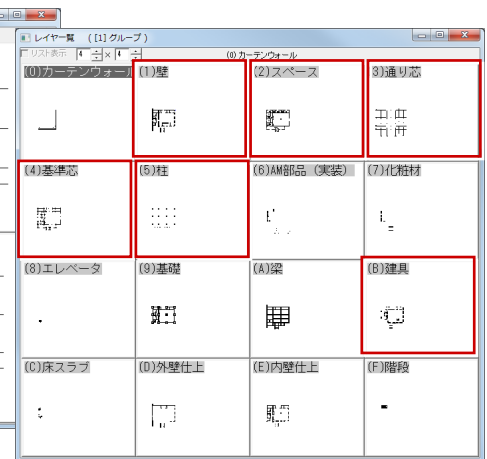
また、平面図ならば、1つのレイヤグループにその階の通り芯、基準芯、スペース、柱、壁、建具のデータが登録されている必要があります。配置図の場合は、敷地のデータが登録されている必要があります。



【3 階建てモデルのファイル】



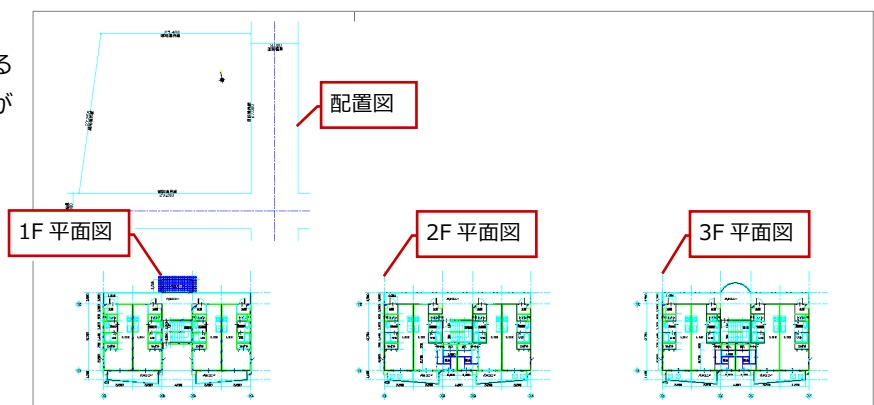
【レイヤグループ一覧】



【1F 平面図のレイヤー一覧】

補足 DWG/DXF データの場合

1 ファイルに各階図面のレイヤが存在する場合、右図のように配置図、各階平面図がレイアウトされている必要があります。



【モデル空間】

レイヤ分け

Jw_cad、DWG/DXF とともに、敷地、通り芯、基準芯、スペース、柱、壁、建具データのレイヤが正しく分けられている必要があります。これらのデータが1つのレイヤに混在していると、正しく変換されません。

■ 配置図

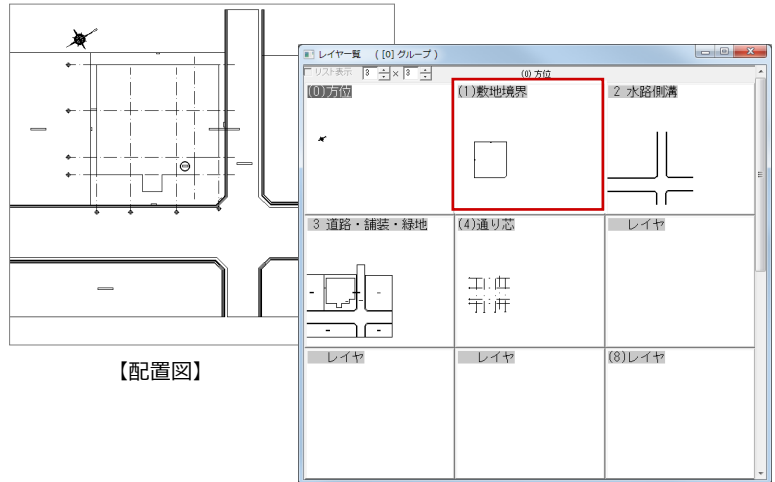
敷地データが、その他のレイヤと分けられている必要があります。通り芯、基準芯がある場合も同様です。

例)

レイヤ (0) : 方位データ

レイヤ (1) : 敷地データのみ

レイヤ (3) : 道路データ



【配置図】

【配置図のレイヤー一覧】

■ 平面図（平面詳細図）

通り芯、基準芯、スペース、柱、壁、建具のデータが、その他のレイヤと分けられている必要があります。

例)

レイヤ (1) : 壁データのみ

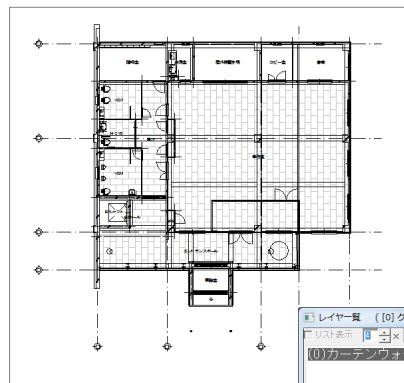
レイヤ (2) : 部屋データのみ

レイヤ (3) : 通り芯データのみ

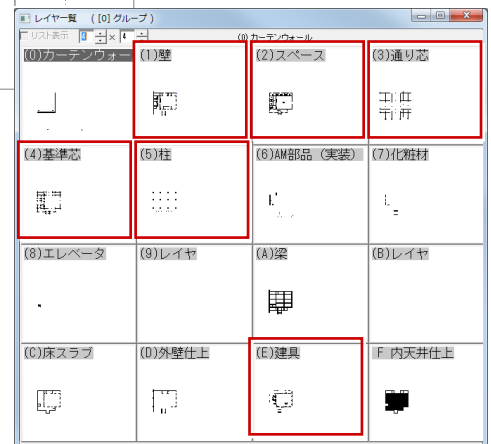
レイヤ (4) : 基準芯データのみ

レイヤ (5) : 柱データのみ

レイヤ (E) : 建具データのみ



【1F 平面図】



【1F 平面図のレイヤー一覧】

※ 柱、壁などのデータは、それぞれ複数のレイヤに分けられていてもかまいません。

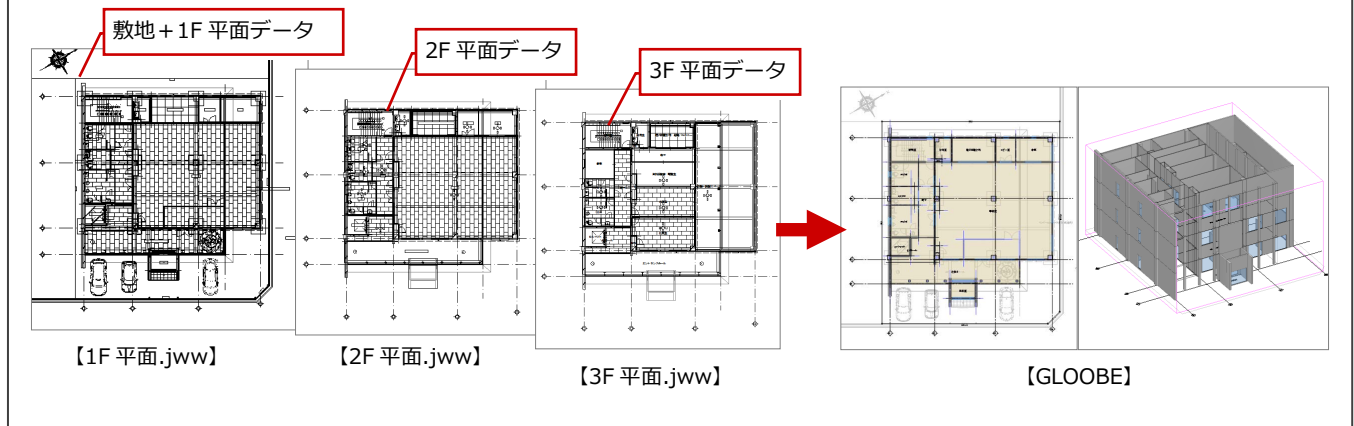
例) 柱データはレイヤ (5) とレイヤ (6) に入力

2 2D 汎用データの BIM 化

GLOBE に Jw_cad、DWG/DXF のデータを読み込んで、2D 汎用データから敷地、通り芯、基準芯、スペース、柱、壁、建具を自動配置してみましょう。

【解説用データ】：1F 平面.jww、2F 平面.jww、3F 平面.jww

※ 階ごとに作成された jww ファイルを使用して解説します。



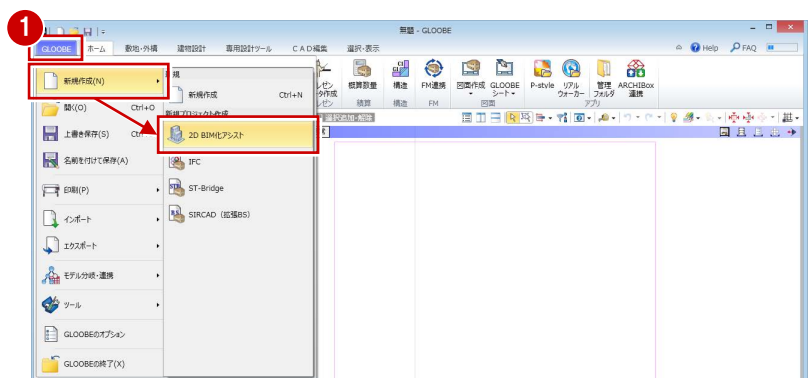
2-1 階数・階高の設定

階・高さを設定する

作成する建物の各階の高さを設定します。

- 1 GLOBE ボタンをクリックして、[新規作成] メニューから [2D BIM 化アシスト] を選びます。

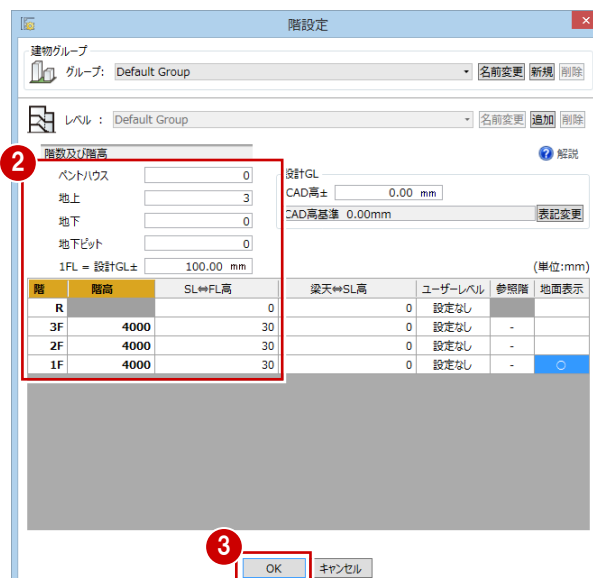
モデルデータを開いている場合は閉じて、新規モデルデータを開きます。



- 2 階数、階高を設定します。
ここでは、次のように設定します。

地上：3 階
 1FL = 設計 GL + 100 mm
 3F 階高：4000 mm、SL⇔FL 高：30 mm
 2F 階高：4000 mm、SL⇔FL 高：30 mm
 1F 階高：4000 mm、SL⇔FL 高：30 mm

- 3 [OK] をクリックして、階設定を終了します。
[2D BIM 化アシスト] ダイアログが開きます。



2-2 BIM 化の条件設定

読み込むファイルを指定する

階ごとに作成された jww ファイルを指定します。

- 1 [1F] の [ファイルを開く] をクリックします。
- 2 「1F 平面.jww」をダブルクリックします。
- 3 同様にして、2F、3F もファイルを指定します。
[2F] : 2F 平面.jww
[3F] : 3F 平面.jww
- 4 [レイヤグループ] が「全てのグループ」になっていることを確認します。

敷地周辺ファイルと建物関連ファイルが分かれている場合は、[敷地] で敷地周辺ファイルを指定します。

1 ファイルに各階図面のレイヤが存在する場合

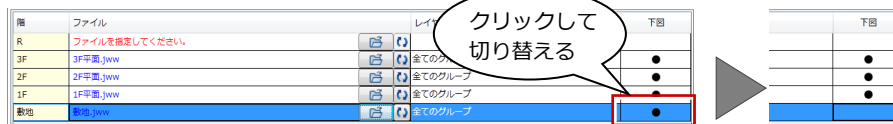
1 ファイルに各階図面のレイヤが存在する Jw_cad ファイルと DWG/DWF ファイルを扱う場合、ファイル指定後の操作が異なります。

⇒ P.17「1 ファイルに各階図面のレイヤがある場合」参照

下図として使用する

読み込む 2D 汎用データから柱、壁、建具などのオブジェクトを自動配置しますが、それ以外の BIM 化できないレイヤ（階段やカーテンウォールなど）も下図として読み込むことができます。

また、敷地用のファイルがあり、1 階平面にも敷地データがある場合、[敷地] [1F] のファイルを指定すると、敷地の下図データが重複することになります。このような場合は、[敷地] の下図を OFF にします。

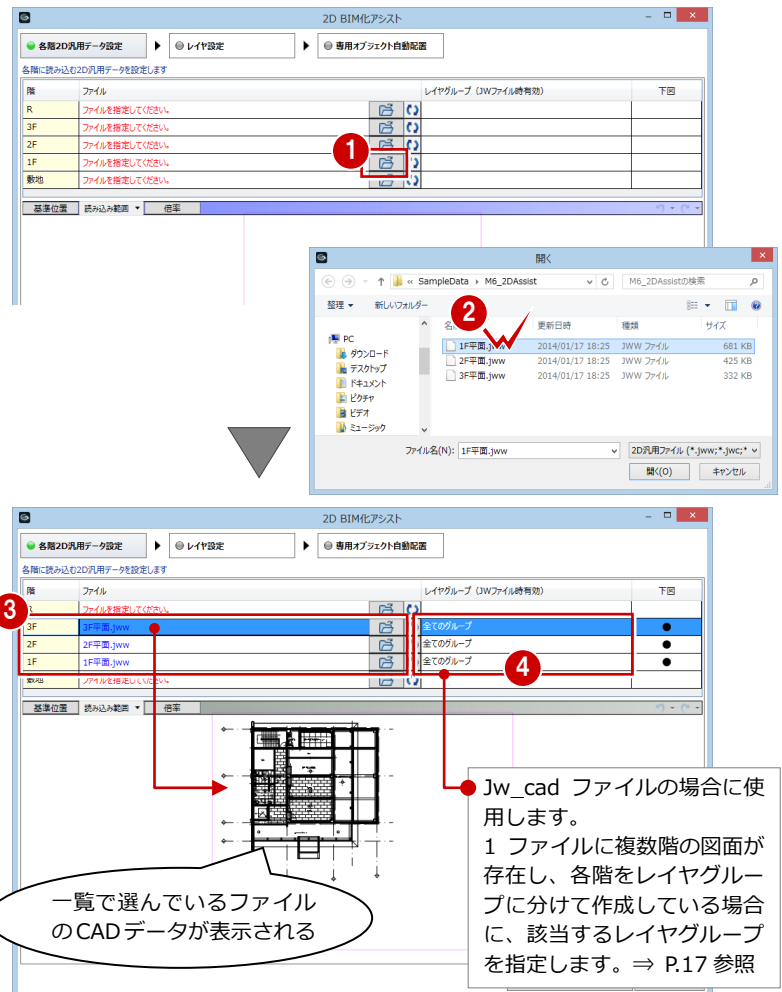
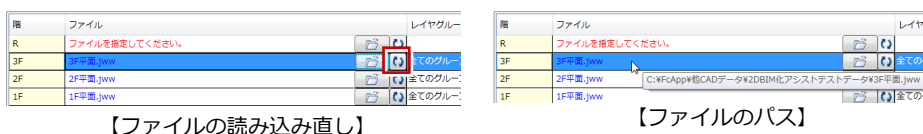


Jww ファイルを更新した場合

ファイルにマウスカーソルを移動すると、ファイルのパスを確認できます。

指定したファイルと読み込まれた下図はリンクされるため、ファイルのパス、名称が変更されるとリンクが切れ、下図を参照、更新できません。

ファイルを指定した後に元データを修正した場合は、[更新] でファイルを読み込み直すことができます。

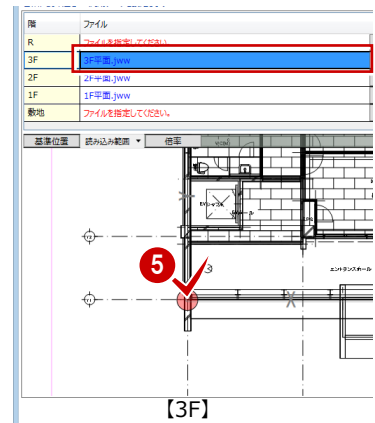
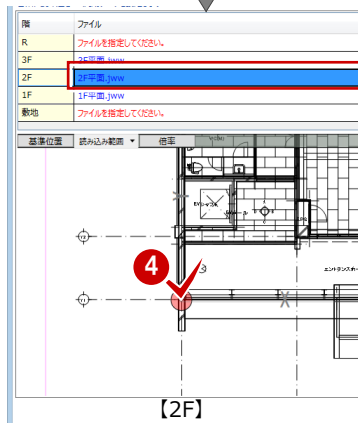
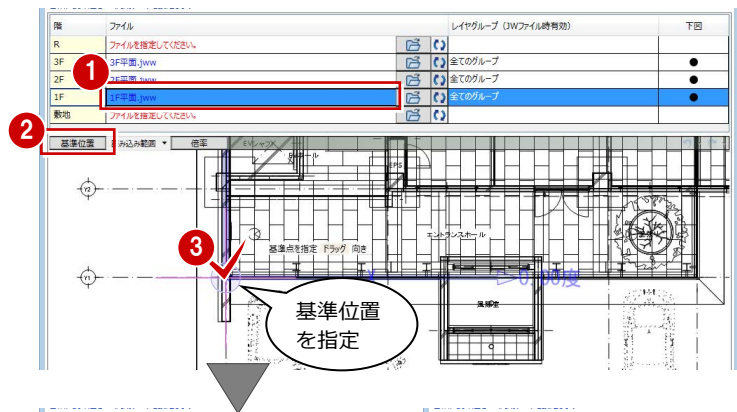


各図面の基準位置を合わせる

上下階で図面の位置が揃っていないため、基準位置を揃えます。

- ① 変更する階のファイルを選びます。
- ② ビュー上部の「基準位置」をクリックします。
- ③ ビューを拡大表示して、基準位置をクリックします。
ここでは、通り芯の交点を指定します。
- ④⑤ 同様にして、[2F] [3F] の基準位置を変更します。

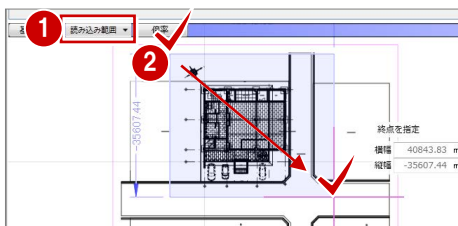
入力位置を一時的に拡大表示したいときは、ズームビューが便利です。拡大表示したい位置にマウスカーソルを移動して、Z キーを押すと表示されます。ズームビュー上で、再度 Z キーを押すと表示が消えます。



読み込む範囲を変更するには

敷地周辺の領域が大きい場合など、不要な部分を読み込みたくないときは、「読み込み範囲」で読み込む範囲を指定します。

※ データ量が多いと、平面ビューの表示スピードが遅くなるため、できるだけ不要な部分は読み込まないようにしてください。



【▼】をクリックすると、角度付き矩形、多角形の範囲を指定できます。
範囲指定を間違えた場合は、「更新」をクリックしてファイルを読み込み直します。

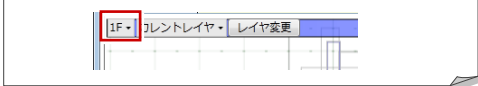
レイヤごとに自動配置の対象を指定する

例えば、レイヤ (1) を壁自動配置の参照データとするには、レイヤ (1) を壁に割り当てる必要があります。ここでは、レイヤをどのオブジェクトの参照データとするかを指定します。

自動配置するレイヤを確認する

- 1 [レイヤ設定] をクリックします。
- 2 壁の線分が入ったレイヤをクリックして、[壁] に●が付いていることを確認します。
- 3 同様にして、残りの敷地、通り芯、基準芯、スペース、柱、建具のレイヤに●が付いていることを確認します。

階を切り替えて、ビューで各階のレイヤを確認してください。



番号	名前	敷地	通り芯	基準芯	スペース	柱	壁	建具
1	G:1 - 1F市木							
2	G:0 - 1F壁						●	
3	G:1 - 1F床スラブ							
4	G:0 - 1F廊下・玄関							
5	G:0 - 1F柱					●		
6	G:0 - 1Fスペース				●			
7	G:1 - 1F独立基礎							
8	G:0 - 1Fバタ基礎							
9	G:0 - 1F基礎							
10	G:0 - 1F床スラブ							
11	G:0 - 1F廊下・玄関							
12	G:0 - 1F壁						●	
13	G:0 - 1F柱					●		
14	G:0 - 1F窓枠 (実体)							
15	G:0 - 1Fエレベータ							
16	G:0 - 1FAM階床							
17	G:1 - 1F建具							●
18	G:0 - 1Fエレベーターアライメント							
19	G:1 - 1FAM部高 (想定)							
20	G:0 - 1F廊下・玄関 (実体)							
21	G:0 - 1F通り芯		●					
22	G:0 - 1F基準芯			●				
23	G:0 - 1F敷地・地盤	●						
24	G:0 - 1F基礎・基礎・地盤							
25	G:0 - 1F基礎・基礎・地盤							
26	G:0 - 1F基礎・基礎・地盤							
27	G:0 - 1F基礎・基礎・地盤							
28	G:0 - 1F基礎・基礎・地盤							
29	G:0 - 1F基礎・基礎・地盤							
30	G:0 - 1F基礎・基礎・地盤							
31	G:0 - 1F通り芯		●					
32	G:0 - 1F基準芯			●				
33	G:0 - 1F敷地・地盤	●						
34	G:0 - 1F基礎・基礎・地盤							
35	G:0 - 1F基礎・基礎・地盤							
36	G:0 - 1F基礎・基礎・地盤							

自動配置しないレイヤを解除する

「外壁仕上」などレイヤ名称に「壁」があると、[壁] に●が付きます。外壁仕上の線は壁 (躯体) ではないため、自動配置の対象から外します。

- 4 名称に「外壁仕上」が入ったレイヤをクリックし、ビューでデータを確認します。
- 5 [壁] の●をクリックして解除します。
- 6 同様にして、レイヤ「内壁仕上」の [壁] の●をクリックして解除します。

番号	名前	敷地	通り芯	基準芯	スペース	柱	壁	建具
4	G:0 - 1F外壁仕上						●	
5	G:0 - 1F壁							
6	G:0 - 1F内壁仕上						●	
7	G:0 - 1F窓枠							
8	G:0 - 1Fカーテンウォール							
9	G:0 - 1F柱					●		

●の初期値について

レイヤ名称にオブジェクト名が含まれていると、自動配置の対象を示す●が自動的に付けられます。例えば、レイヤの名称に「壁」があると [壁] に●が付く、「部屋」があると [スペース] に●が付きます。

自動でレイヤが割り当たらない場合

レイヤ名称が「レイヤ 01」「layer01」「Wall」などのように設定されている場合は、自動的に●が付きません。

レイヤを選んで、ビューで柱、壁などを確認した後、自動配置の対象とするオブジェクトに●を付けます。

ビューで自動配置対象の線分を確認するには

レイヤの分け方によっては、壁データが複数のレイヤに分けられている場合があります。壁 (オブジェクト) に割り当てられているデータを確認したい場合は、ビュー上部の設定を「カレントオブジェクト」[壁] に変更します。次図は、壁以外にも外壁仕上、内壁仕上の [壁] に●が付いている場合です。

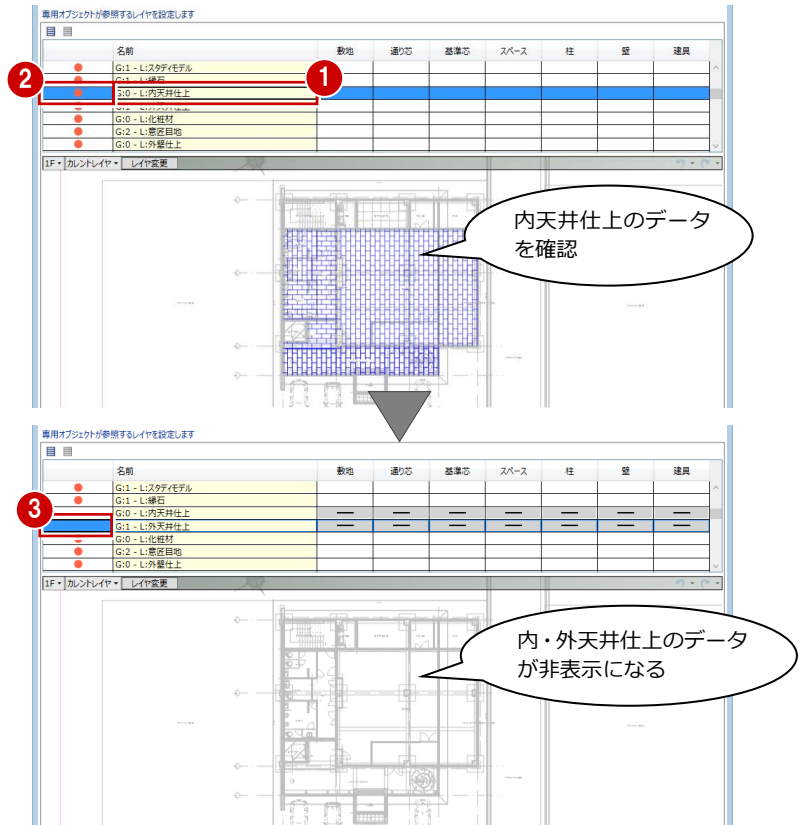
番号	名前	敷地	通り芯	基準芯	スペース	柱	壁	建具
1	G:2 - 1F壁仕上						●	
2	G:0 - 1F外壁仕上						●	
3	G:1 - 1F内壁仕上						●	
4	G:0 - 1F窓枠							
5	G:0 - 1Fカーテンウォール							
6	G:0 - 1F柱					●		

下図に読み込まないレイヤを指定する

床仕上や天井仕上の目地など、下図として不要となるレイヤを読み込みたくない場合は、次のように操作します。

- ① 下図に不要なレイヤ（ここでは「内天井仕上」）を選び、ビューでデータを確認します。
- ② 左端にある●（オレンジ）をクリックして解除します。
- ③ 同様に、レイヤ「外天井仕上」の●（オレンジ）をクリックして解除します。

下図として読み込みたい場合は、再度クリックして●（オレンジ）を付けます。

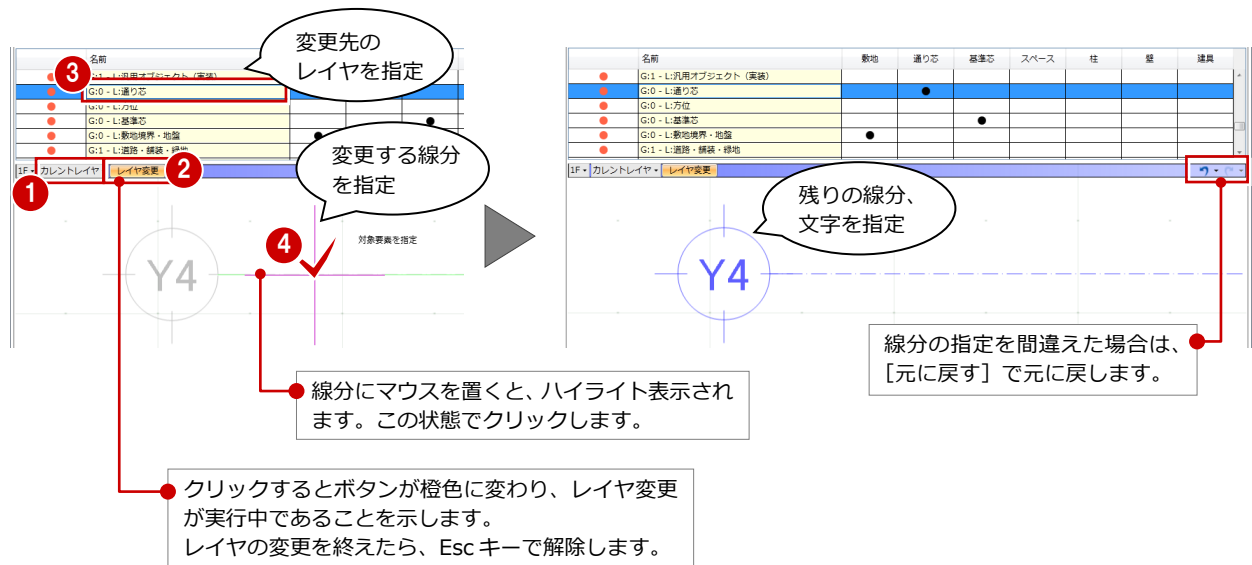
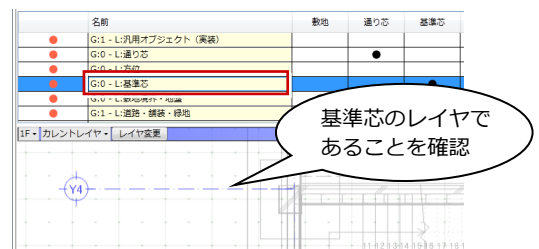


補足 レイヤ分けが間違っていた場合

例えば、右図のように通り芯の一部が基準芯のレイヤになっているなど、2D 汎用データのレイヤ分けが間違っていた場合、次のようにして基準芯のレイヤから通り芯のレイヤに変更することができます。

[カレントレイヤ] になっていることを確認して、[レイヤ変更] をクリックします。

変更先のレイヤを指定して、ビューで変更する線分（ここでは通り芯の線分、文字）をすべて指定します。



自動配置するオブジェクトを指定する

ここでは、[レイヤ設定] で指定した通り芯、基準芯、スペース、柱、壁、建具を自動配置するかどうかを指定します。

例えば、壁は自動配置するが、建具は自動配置しないというように指定することができます。

① [専用オブジェクト自動配置] をクリックします。

② 自動配置する場合、[敷地] [通り芯] [基準芯] [スペース] [壁] [柱] [建具] が ON になっていることを確認します。ここでは、右図のように設定されていることを確認します。

オブジェクトを自動配置しない場合は、チェックを OFF にします。

例えば、3F は自動配置しない場合は、[処理] の●をクリックして解除します。

階	処理
R	—
3F	●
2F	●
1F・敷地	●

読み込んだデータにスペースとなるレイヤがない場合は、[基準芯より] を ON にします。基準芯もない場合は、スペースを自動配置できません。

読み込んだデータに壁のレイヤがない場合、[スペースより] を ON にします。このとき、自動配置する外部壁、内部壁をテンプレートから選ぶことができます。

壁厚、柱幅、建具の長さについて条件を設定する

[判定] では、読み込む壁の厚さ、柱幅、建具の長さの最小値と最大値を設定することができます。

例えば、壁の場合、壁厚が最小値～最大値の範囲内であるときに変換され、壁厚が最小値に満たない、または最大値を超えるときは変換されません。

補足 自動配置対象のレイヤについて

[レイヤ設定] で自動配置対象に指定されたレイヤは、対象オブジェクト入力時に下図がハイライト表示されます。

オブジェクトは自動配置せずに、下図でハイライト表示された位置を参照して、オブジェクトを手入力するといった使い方ができます。

詳しくは、P.14「補足：柱などのオブジェクトを一から入力していく場合」を参照してください。

[建具] をクリックすると

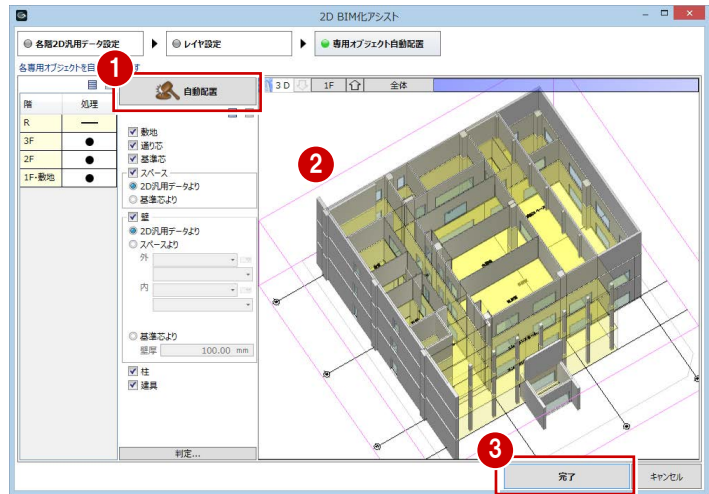
下図の建具レイヤがハイライト表示される

自動配置を実行する

- ① [自動配置] をクリックします。
- ② モニタで自動配置されたオブジェクトを確認します。
- ③ [完了] をクリックします。
- ④ 確認画面で [はい] をクリックします。

⇒ 次ページ「補足：敷地、スペース、柱、壁、建具の変換について」参照

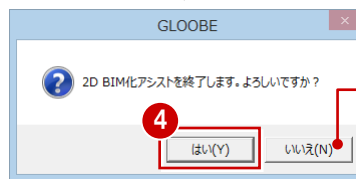
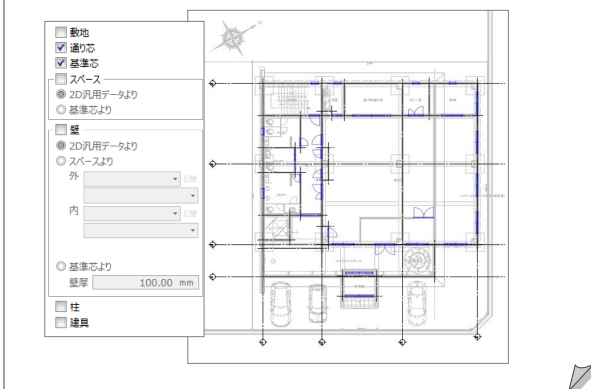
BIM 化の後は、モデルデータを保存しておきましょう。



下図だけを読み込むには

柱などのオブジェクトを自動配置せず、下図だけを読み込みたい場合は、[自動配置] をクリックせずに [完了] だけをクリックします。

下図のハイライト表示を参照して、スペース、柱、壁、建具を一から手入力していきたい場合は、[通り芯] [基準芯] だけを ON にして、自動配置します。



設定に戻りたい場合は、[いいえ] をクリックします。

補足 敷地、スペース、柱、壁、建具の変換について

2D 汎用データの敷地、スペース、柱、壁、建具の変換についてみてみましょう。

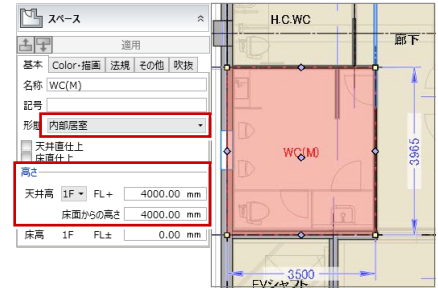
2D BIM 化アシスト機能では、レイヤの設定や図形により、意図した完全な BIM モデルを作成することは難しいため、モデル化の後は各オブジェクトのプロパティの変更、トラッカーを使っての編集、オブジェクトの追加などが必要になります。

■ 敷地について

- ・ 道路、方位は変換できません。
- ・ 敷地辺の近くに、「敷地境界線」「道路境界線」「隣地境界線」の文字列があっても、プロパティにセットされません。

■ スペースについて

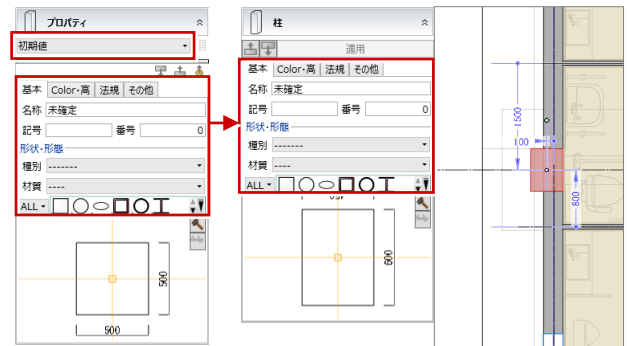
- ・ スペースの天井高は、[階設定] ダイアログで設定した階高の値となります(右図)。モデル化の後は、プロパティで天井高を変更してください(複数選択することで一括変更することも可能)。
天井高および名称以外の形態、法規、Color などは、オブジェクト入力時のプロパティの初期値と同じになります。



【スペース配置後のプロパティ】

■ 柱について

- ・ 柱サイズ以外の名称、材質、Color などは、オブジェクト入力時のプロパティの初期値と同じになります(右図)。
- ・ 異形柱、H 形柱、丸柱は認識できません。
- ・ 例えば、RC 柱、S 柱が混在する場合、RC 柱は「レイヤ (1)」、S 柱は「レイヤ (2)」というように複数レイヤに分けられていても変換できますが、それぞれを RC 柱、S 柱に変換することはできません。

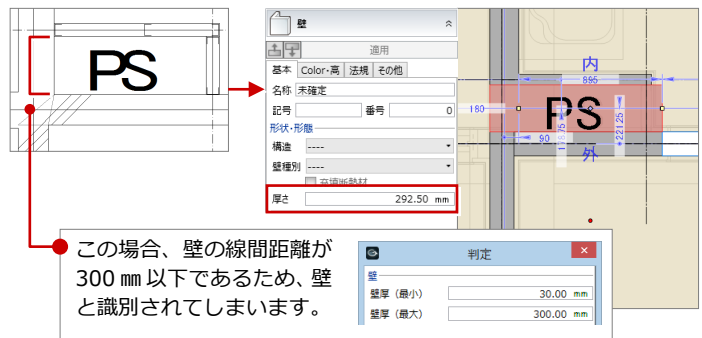


【柱入力時のプロパティ】

【柱配置後のプロパティ】

■ 壁について

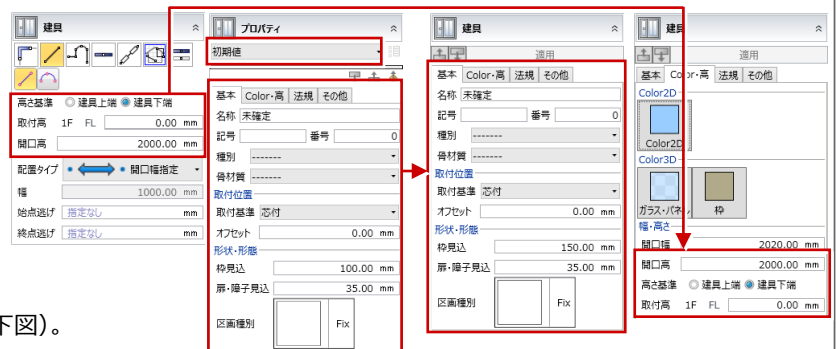
- ・ [2D 汎用データより] を ON にして変換した場合、長さ、厚さ以外の名称、壁種別、Color は、オブジェクト入力時のプロパティの初期値と同じになります。
- ・ たれ壁・腰壁は、通常の壁で変換されます。
- ・ 2D 汎用データの線間の距離と [判定] ダイアログの条件をもとに、壁をモデル化しているため、PS 部分のように狭いエリアに壁が配置されることがあります(右図)。
不要な壁を削除し、トラッカーなどを使用して壁を編集します。



この場合、壁の線間距離が 300 mm 以下であるため、壁と識別されてしまいます。

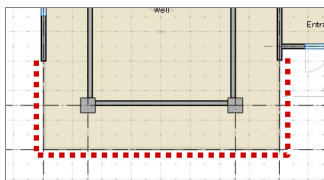
■ 建具について

- ・ 建具幅以外の取付高、開口高、Color などは、オブジェクト入力時のプロパティの初期値と同じになります(右図)。
- ・ 建具の 2D 汎用データがあっても、壁が配置されない箇所には建具は変換されません。
- ・ 円弧形状の建具は変換できません。
- ・ 凹状に入力された建具は変換できません(下図)。



【建具入力時のプロパティ】

【建具配置後のプロパティ】



【凹状に入力された建具は変換不可】

2-3 自動配置したオブジェクトの編集

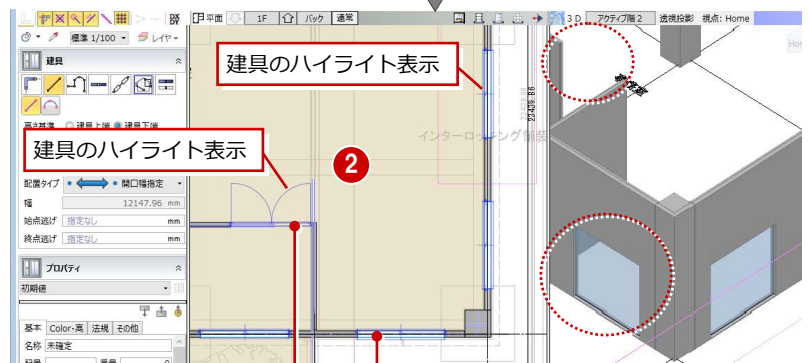
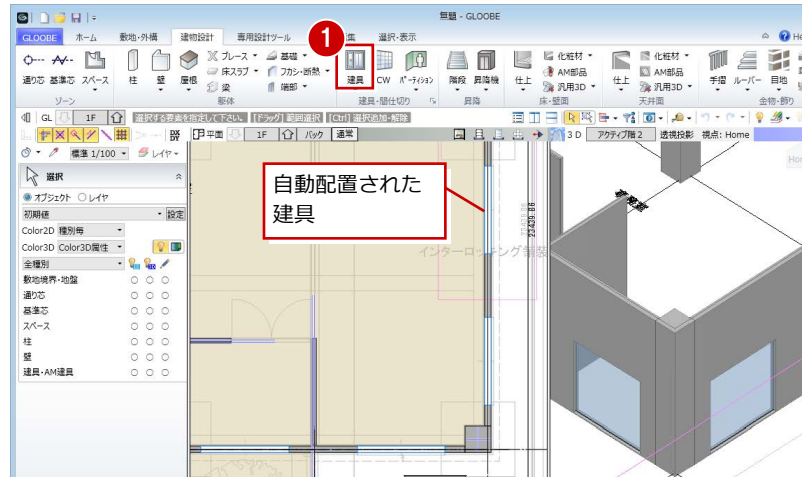
下図のハイライト表示を参照して、目的の位置にオブジェクトが配置されているかを確認し、うまく変換されなかった箇所にオブジェクトを追加します。また、自動配置されたオブジェクトにテンプレートを割り当てたりして、プロパティを設定します。

オブジェクトの位置を確認する

ここでは、配置された建具の位置を確認してみましょう。

- ① [建具] をクリックします。
- ② 下図の建具のレイヤがハイライト表示されるので、建具が自動配置されているかどうかを確認します。
- ③ 同様にして、[通り芯] [基準芯] [スペース] [柱] [壁] をクリックして、オブジェクトを確認します。

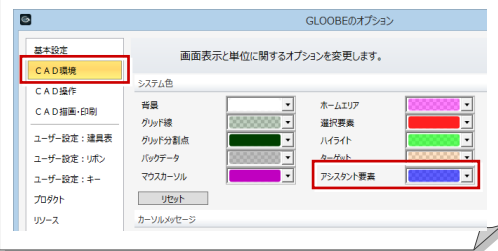
※ 不足している位置には、下図のハイライト表示を参照して、オブジェクトを追加していきます。



建具がない位置にハイライト表示される場合は、建具が自動配置されなかったことを表します。

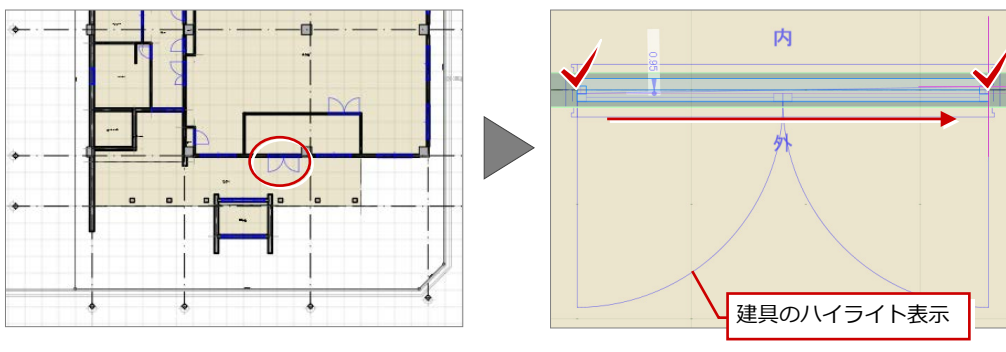
ハイライト表示の色を変更するには

配置されているオブジェクトとハイライト表示の色が識別しにくい場合は、[GLOOBE のオプション] ダイアログの [CAD 環境] にある [アシスタント要素] でハイライト表示の色を変更します。



柱などのオブジェクトを一から入力していく場合

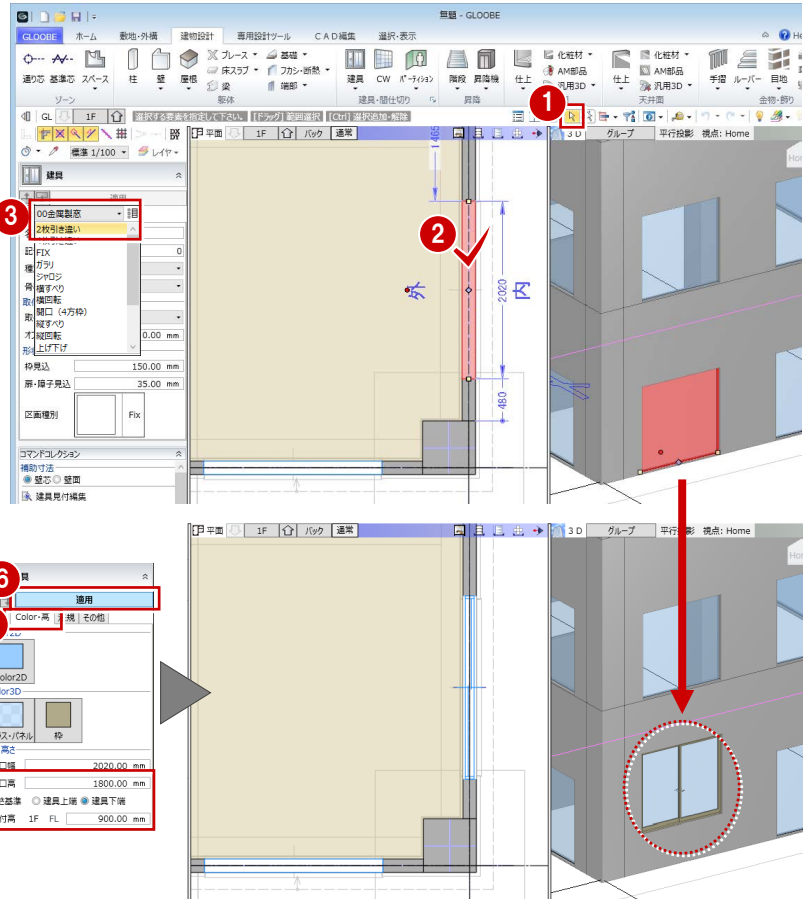
オブジェクトを自動配置して編集していく以外にも、すべてのオブジェクトを自動配置せずに、下図のハイライト表示を参照して、一からオブジェクトを入力していく方法、通り芯、基準芯だけを自動配置して柱、壁などを入力していく方法が考えられます。



オブジェクトにテンプレートを割り当てる

ここでは、建具を例に解説します。
建具にテンプレートを割り当てて、建具の取付高、開口高、Colorなどを変更します。

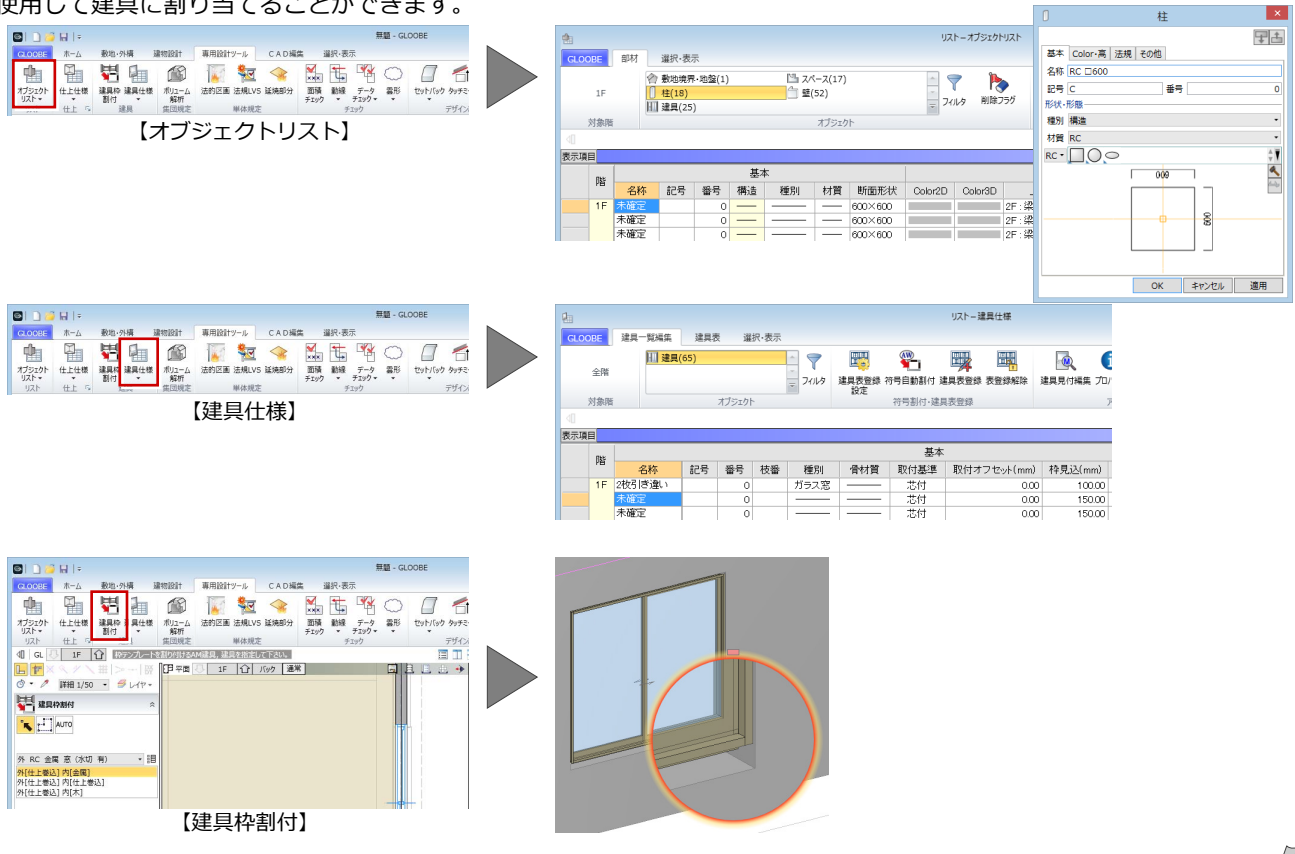
- ① [選択] をクリックします。
- ② 変更する建具をクリックします。
- ③ [テンプレート割り当て] をクリックして、割り当てるテンプレートを選びます。
- ④ [Color・高] タブをクリックします。
- ⑤ [開口高] [取付高] などを変更します。
- ⑥ [適用] をクリックします。



テンプレートの内容
(絵柄も含む) が読み
込まれる

補足 その他の編集方法

オブジェクトは、[オブジェクトリスト] で一覧表示し、テンプレートの割り当てやプロパティの設定が可能です。
また、建具については、[建具仕様] でもテンプレートの割り当て、プロパティの設定が可能です。建具枠は、[建具枠割付] を使用して建具に割り当てることができます。



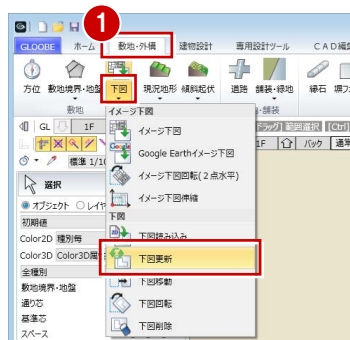
補足 下図を操作する

ここでは、読み込んだ下図の更新、移動、回転、削除、下図のレイヤの表示・非表示の切り替え方法を紹介します。

■ 下図を更新するには

モデル化した後に、Jw_cad ファイル、DWG/DXF ファイルを修正した場合は、[敷地・外構] タブの [下図] メニューの [下図更新] で、下図を更新することができます。

ただし、指定したファイルと読み込まれた下図はリンクされているため、ファイルのパス、ファイル名が変更されるとリンクが切れ、下図を更新できません。



階	ファイル	状態
3F	C:\FwApp\GLOBE\SampleData\M5_2DAssist\3F平面.jww	更新を行うファイルが見つかりません。
2F	C:\FwApp\GLOBE\SampleData\M5_2DAssist\2F平面.jww	更新可能です。
1F	C:\FwApp\GLOBE\SampleData\M5_2DAssist\1F平面.jww	更新可能です。

番号	名前	敷地	通り	基準	スペース	柱	壁	建具
1793	G:1 - L:巾木							
1794	G:1 - L:廻縁							
1795	G:0 - L:壁						●	
1796	G:0 - L:スペース							
1797	G:1 - L:独立基礎							

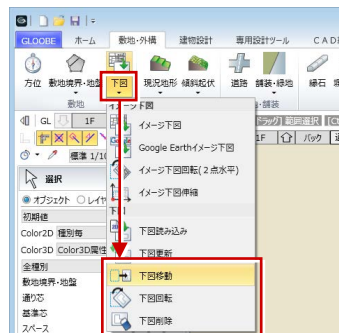
ファイルのリンクが切れていることを示しています。
[ファイル] の表示と同じになるように、エクスプローラでファイルのパスとファイル名を確認し、修正してください。

[更新] をクリック

ハイライト表示するレイヤを変更できます。

■ 下図を移動・回転・削除するには

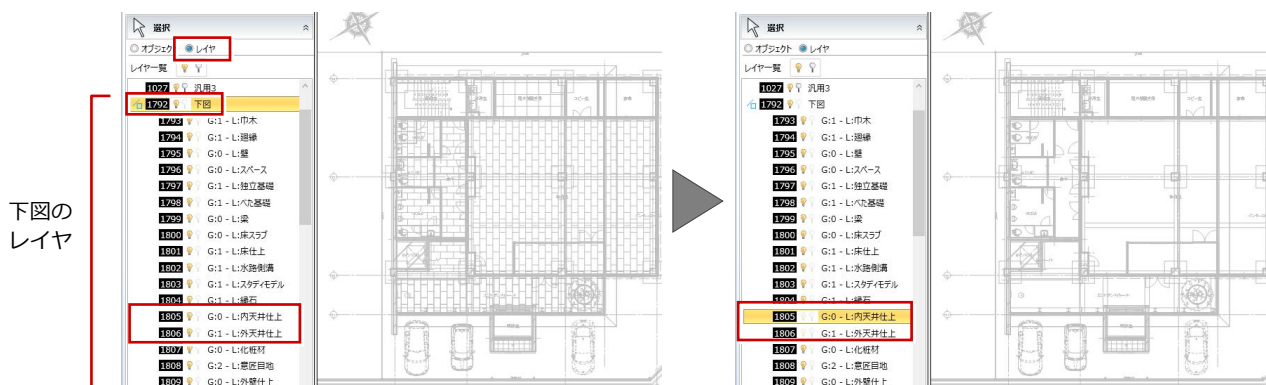
下図を移動、回転、削除したい場合は、[敷地・外構] タブの [下図] メニューにある [下図移動] [下図回転] [下図削除] を使用します。



■ 下図のレイヤを非表示にするには

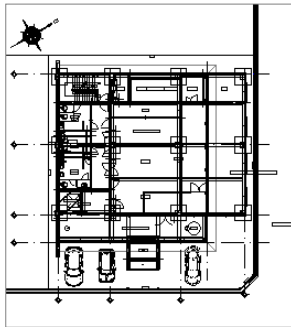
下図として読み込まれたレイヤは、レイヤー一覧の「下図」で確認でき、レイヤごとに表示・非表示を指定できます。

💡 は表示、💡 は非表示のレイヤであることを示し、クリックして切り替えます。



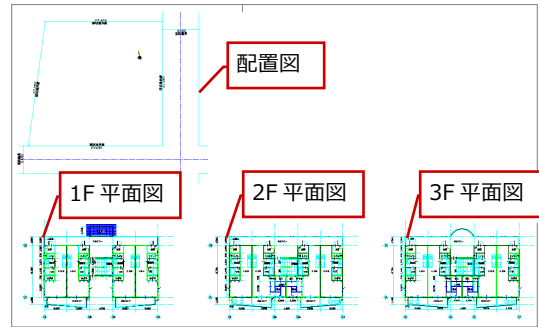
A1 1 ファイルに各階図面のレイヤがある場合

2D BIM 化アシスト機能では、階ごとに用意されたファイルだけではなく、各階図面のレイヤが 1 ファイルで管理されているものを扱うことができます。この 1 ファイルを指定する場合、Jw_cad ファイルと DWG/DXF ファイルでファイル指定後の手順が異なります。



【3 階建てモデルの Jw_cad データ】

- jww ファイルのレイヤグループ
- レイヤグループ [0] : 配置図
- レイヤグループ [1] : 1F 平面図
- レイヤグループ [2] : 2F 平面図
- レイヤグループ [3] : 3F 平面図



【3 階建てモデルの DXF データ】

A1-1 Jw_cad ファイルの場合

読み込むファイルを指定する

- ① [敷地] の [ファイルを開く] をクリックして、読み込むファイルを指定します。
- ② 同様にして、[1F] [2F] [3F] も同じファイルを指定します。

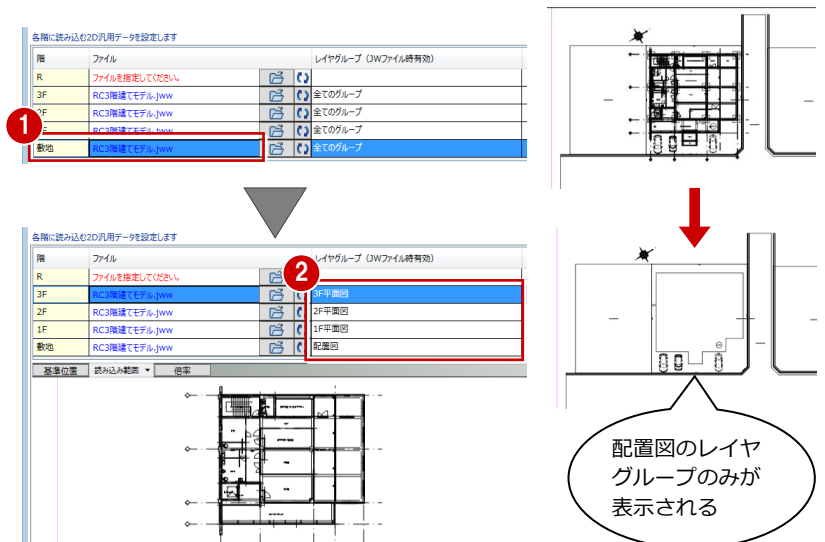


レイヤグループを指定する

- ① [敷地] をクリックします。
- ② 次のように [敷地] [1F] [2F] [3F] の [レイヤグループ] を指定します。

- [敷地] : 配置図
- [1F] : 1F 平面図
- [2F] : 2F 平面図
- [3F] : 3F 平面図

※ 以降の操作は、P.8「各図面の基準位置を合わせる」から P.15「オブジェクトにテンプレート割り当て」と同様です。



レイヤ設定について

[レイヤグループ] で各階のレイヤグループを指定している場合、[レイヤ設定] には指定している階のレイヤが表示されます。階を切り替えて、自動配置のレイヤなどを指定してください。

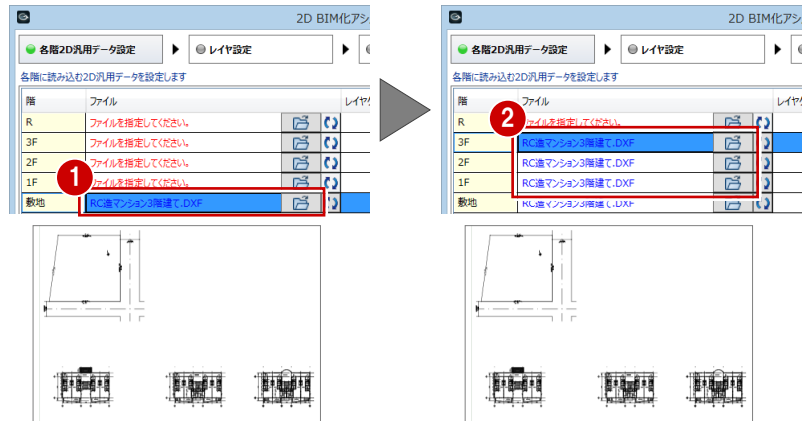
	名前	敷地		名前	敷地		名前	敷地
1F	● G-1 - L1壁		2F	● G-2 - L1カーテンウォール		3F	● G-3 - L1スペース	
	● G-1 - L1スペース			● G-2 - L1スペース			● G-3 - L1梁	
	● G-1 - L1梁			● G-2 - L1梁			● G-3 - L12Fカーテンウォール	
	● G-1 - L1化粧材			● G-2 - L1壁			● G-3 - L1壁	
	● G-1 - L1外壁仕上			● G-2 - L1建具			● G-3 - L1レイヤ	
	● G-1 - L1カーテンウォール			● G-2 - L1階段			● G-3 - L1階段	
● G-1 - L1柱		● G-2 - L1柱		● G-3 - L1カーテンウォール				
1F	● 隠れたレイヤ - レイヤ変更		2F	● 隠れたレイヤ - レイヤ変更		3F	● 隠れたレイヤ - レイヤ変更	

【1 階平面図レイヤグループ】 【2 階平面図レイヤグループ】 【3 階平面図レイヤグループ】

A1-2 DWG/DXF ファイルの場合

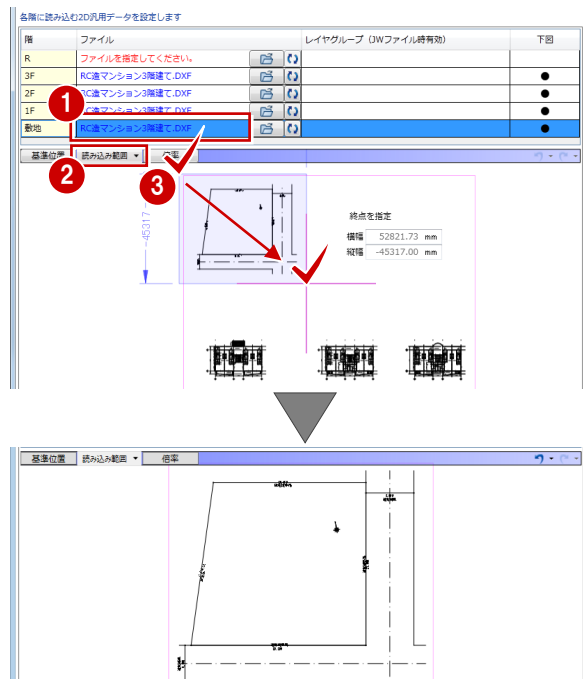
読み込むファイルを指定する

- ① [敷地] の [ファイルを開く] をクリックして、読み込むファイルを指定します。
- ② 同様に、[1F] [2F] [3F] も同じファイルを指定します。

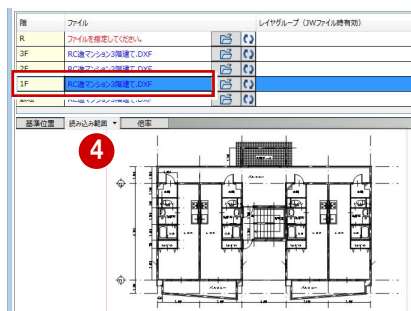
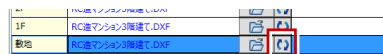


読み込む範囲を指定する

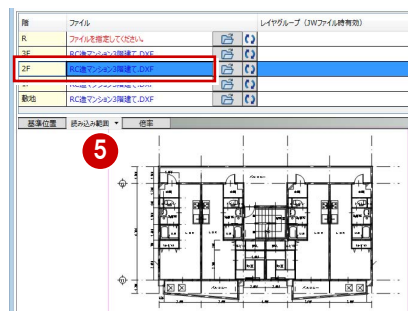
- ① [敷地] をクリックします。
 - ② [読み込み範囲] をクリックします。
 - ③ レイアウトされた配置図の範囲を指定します。
 - ④～⑥ 同様に、[1F] [2F] [3F] をクリックして、各階の平面図の範囲を指定します。
- ※ 以降の操作は、P.8「各図面の基準位置を合わせる」から P.15「オブジェクトにテンプレートを割り当てる」と同様です。



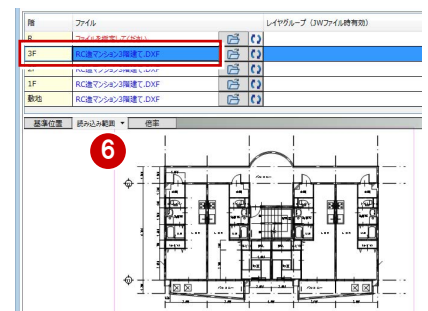
指定する範囲を間違えた場合は、[更新] をクリックしてファイルを読み込み直します。



[1F]



[2F]



[3F]